

# 挑 戦

第5号

発行日 平成7年7月24日  
発行者 吉村研究室新聞委員会



## 第5号発刊にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

毎年恒例の研究室新聞(挑戦)の発刊の時期となりました。1年に1回の発刊ではありますが、この新聞を通して今の研究室の状況を理解し、一層研究室に対する親しみを深めて下さることを期待する次第であります。本新聞の発刊にあたっては、新聞委員会(委員長 大学院前期課程2年 加賀谷文明君)のメンバーに大変な苦勞をかけており、改めて感謝する次第です。

昭和58年に研究室を作ってから、早いもので今年で13年目に入っております。研究室を修了、卒業し、社会人となった諸君が全員元気で活躍している話や便りを聞くたびに、また元気な姿を大学で見るたびに、この上ない喜びを感じております。

一部の諸君は知っているかと思いますが、本年4月1日付で鉾山学部長に就任致しました。経験豊富な先生がたくさんおられる中で私の私への指名には、大変なプレッシャーを感じております。4月1日以降今日まで、毎日毎日が新しい事柄の勉強で、緊張の連続であります。今までのように、教授としての教育・研究に大部分の時間を割くことはできず、半ば行政職として鉾山学部の充実・発展を考える日々が続いております。

創立以来85年という伝統ある学部を、21世紀へ

橋渡しするために、

- (1) 社会のニーズに合わせた学部的发展
- (2) 社会に貢献できる有能な人材の育成
- (3) 秋田におけるセンター オブ エクセレンス (COE) としての研究機能の充実

を目標に頑張っている所です。

現在研究室は総勢35名の大所帯となっております。客員研究員の王新生先生を含めて、学生の総数は31名です。講義はともかくとして、学生の研究指導は思うようにできず、方針を立てるのみで、後はほとんど鈴木講師が指導しております。一部の学生につきましては、医学部の工藤先生と本研究室の佐藤技官、TDK 榎の田口・佐藤(茂)両氏にもお世話になっている所です。

大学院博士課程の学生も4名在籍しており、博士論文の審査も来年から開始となっております。各人が自分の目標と自立心を持ち、しっかりと一歩一歩大地の上を歩いてくれることを、またそのような能力の養成されることを大いに期待する所であります。

折を見て研究室を訪れ、学生諸君に社会人としての心構えを教示下さることを期待しております。皆様の健闘を祈っております。

盛夏

## 吉村先生学部長就任

五十一歳。歴代で最も若い学部長の誕生となる。「選ばれてびっくりしているというのが正直なところ。大学の存在自体がいろいろな意味で曲がり角にあり、変革期に差しかかっていることから、世代交代を望む流れが私を推してくれたと解釈している。前任者の徳田弘学部長が残してくれた博士課程設立などの素晴らしい仕事を継承、発展させ、期待に沿えるよう頑張りたい」と意欲を見せる。

当面の最大の課題は、十年間の時限設置であることから来年度いっぱいまで廃止される同学部付属資源地学研究施設の後継施設の設置。文部省を納得させる研究内容の施設設置を提案し、概算要求していく必要に迫られている。

「学内で検討を重ね、地球科学、地球資源関連の施設設置を目指している。どのような研究を進める施設とするかなどについて、意見をきちんとまとめていきたい。」

学部の将来像については「地元貢献は工学系を中心に、国際的なリーダーシップは資源系を中心に、それぞれ担っていくだけの人材やノウハウがそろっている。さらに充実させるために、学部・学科の増設、大学院の充実などの道を探っていく

たい。今まで以上に、学生たちが自信と誇りを持って卒業していける学部を目指す。」と、発展へかける意気込みは強い。

父親の転勤の関係で新潟で生まれたが、小学校以降、大学院までずっと秋田暮らし。地元育ちで、同大出身という学部長は初めて。「県などの行政や県内企業との付き合いが長く深いと思う。地元育ちのメリットとして生かしていきたい。」と自信をのぞかせる。

一方で、日本素材物性学会会長として国際会議を主宰するなど、世界へも積極的に羽ばたく面も。三十代に客員研究員として米クラークソン工科大に二年間籍を置いた経験があり、「アメリカの大学が恵まれていることに感心した。あのような研究環境を秋田大でも実現したい。」と夢を語る。研究室では、外国人留学生の積極的な受け入れを心掛けているという。

照れながら「まじめで素朴な秋田県人」と自己評価。趣味のゴルフはハンデ二十四。「忙しくてコースに出る暇がなくなるかなあ」と笑った。大学生の長女は仙台市住。妻、高校生の長男と三人暮らし。秋田市榎山南中町10の11。

(秋田魁新聞より抜粋)

## 素材物性学会国際会議 (International Conference of Materials for Resources '94)

### 吉村先生「国際素材物性学賞」受賞

昨年の10月19日から4日間、秋田市のビューホテルで第二回素材物性学会国際会議(ICMR'94)が開催され、国内外から約300人の参加があり、新素材やその製法技術、環境問題についての議論がなされました。当研究室からは、範さん、袁さん、林さんがポスターセッションに参加しいろいろな議論が交わされていました。

### 吉村教授らを表彰

秋田市で二十日から開かれている第二回素材物性学会国際会議は二十二日、オーストラリア国立大のブライアン・D・O・アンダーソン教授(53)と日本素材物性学会長の吉村昇・秋田大学教授(51)の両氏に「国際素材物性学賞」を授与し、閉幕した。

同賞は、世界中の研究者を対象に素材物性学の発展に寄与した研究者に贈るもので、今回の会議から創設した。

(中略)

一方の吉村教授は、日本素材物性学会の創始者の一人として活躍。米国、中国、韓国などの大学で客員教授を務めるなど国内外で活躍し、素材物性学の理念確立と学会活動に尽力した。



国際素材物性学賞を受賞したアンダーソン

オーストラリア国立大教授と(右)と吉村秋田大教授

(秋田魁新聞より抜粋)

## 研究生紹介

王先生の奥様であり、来年度から大学院博士後期課程に進まれる予定であります陳麗先生にも寄稿頂きましたので掲載いたします。

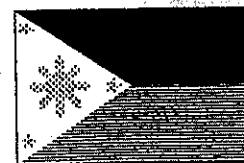
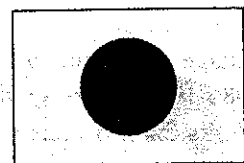
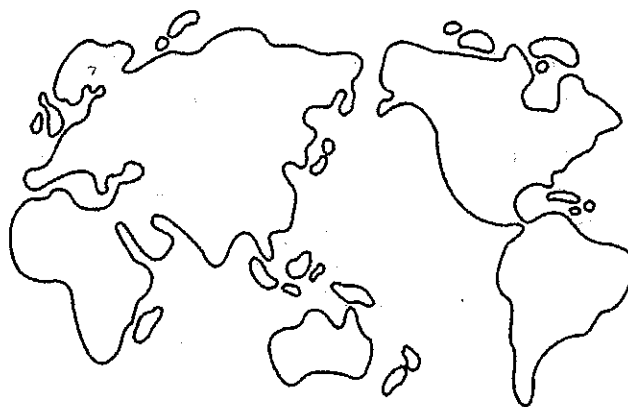
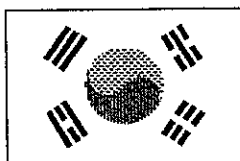
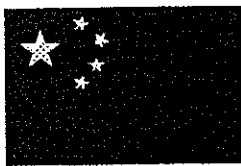
My name is Chen Li, come from Dept of Computer and Information of Hubei Province Economic & Management University, China. Wuhan is the biggest city on the middle of the Yangzi River and famous for the hot summer up to 39° C in China. Now I am the research student under the guidance of Prof. Yoshimura. Next year I will continue to study the Ph.D. My research interests here is the computer simulation of illumination.

Before I came to Akita, I had learned a lot about Prof. Yoshimura and his laboratory from my husband, Dr. Wang. No sooner had I come here than I found that Professor N. Yoshimura and his laboratory had achieved great success not only in electrical Insulation but also in computer simulation as well as other research areas. I was much surprised that there are many research fields and works. I am very glad and fortunate to study and work under the guidance of Prof. Yoshimura and Dr. Suzuki. It is certain that my research and teaching ability will be largely promoted. Though I have a little experiences in teaching and research of computer language and Data Base in China, the computer simulation of illumination is a new interesting project to me. I will do my best to finish the study and research.

I never think that I would return to university as a student since 1987 I got the M.S. and worked as a teacher in Hubei Province Economic & Management University. Before I entered Electronic Science & Technology University of China in 1977, I was sent to countryside as a farmer for several years. After receive B.S. in 1981, I joined Wuhan Yangzi Fax Machine Works as assistance engineer. Several years later, I continued to study the M.S. course.

Since there is some culture background in common between China and Japan I was accustomed to life in Akita for a short time. In Yoshimura laboratory, I find that the teachers are intimated and scholarly, the students are diligent and conscientious. Many foreign students study and work friendly with the Japanese students. Studying here is just like living in a big international family.

Now I have got familiar with the Japanese computer network, the Illumination and the computer imaging. Recently, I am studying the Japanese hard. I hope to communicate with others in Japanese as soon as possible, not like now conversation in English.



## 年間行事

猛暑だった去年の8月から冷夏が予想される今年の7月までをダイジェストで振り返ってみましょう

'94 8月

なんて暑い夏なんだ。扇風機のまわりに人間がたかっている。団扇が手放せない。8,9,10日にはセンサ研究会が開催され、その後夏休みを迎える。4年生は休み明けに中間発表を控えており、ほとんど休みを取れない状態だ。このころから4年生の本性が現れ始める。中間発表はそれぞれの胸の内に何かを残したにちがいない。大学院推薦組の面接は流れる汗とともに行われ、無事発表を終えた。

9月

就職組の内定および大学院進学者が全員決定。どこからともなく「ありがとう」「おめでとう」の声がコップのふれあう音とともに夜空を駆けめぐった。

10月

素材物性学会国際会議開催。吉村先生が「国際素材物性賞」を受賞する。

大学祭で展示するパネルなどの準備で大忙し。また、秋田テクノフェアがアトリエにて開催され、我が研究室は磁気殺菌処理システムを展示する。

11月

恒例のボーリング大会は谷口研究室の他に坂田研究室も加わり、大所帯で開催された。2次会は異様な盛り上がりを見せ、店のおばちゃんに注意される人間さえ現れた。また、王先生が我が研究室の研究生となり、歓迎会が行われる。

12月 上旬

カラオケ大会が行われた。吉村先生ありがとうございますとばかりに変装をし、何かに取り付かれた様に踊る者が出現するなど、異空間を形成した。

12月 下旬

修論・卒論ともに本格化し始める。研究室の廊下を顔色の悪い人間がうろろうろする。そんな中で冬期中間発表の準備が、院生のあたたかい眼差しのもとで行われ、発表が終わった。そして忘年会になだれ込む。2次会は吉村先生のお宅で行われ、おいしいお酒とおつまみを頂く。吉村先生、御迷惑を掛けました。

'95 1月

正月のひとときを味わった後、研究室は修論・卒論へと疾走する。この時期、悪性のインフルエンザが流行。我が研究室もあおりを受ける。予定が大幅にずれ込む人間が現れる。この頃から研究室は眠りを忘れる。

2月

ああ、修論・卒論がようやく終わりを告げる。ありがとう。みんなの顔つきが変わり、穏やかになる。写真に撮ってその変わり様を比較すればよかった。

3月

卒業・修了式。それぞれの思いを胸に式に臨んだ。また、陳先生が我が研究室の一員（研究生）となった。

4月

吉村先生が学部長に就任。4年生配属。今年の4年生が本性を現すのはいつ頃だろう。学部長就任&新入生歓迎パーティーが行われ、研究室が走り始めた。

6月

忙しい吉村先生を囲んで懇親会が行われた。日頃話す機会の少ない先生との会話も弾む。また、素材物性学会がビューホテルにて開催された。

7月

今年の就職は氷河期時代とも呼ばれ、去年よりさらに厳しい。自分の研究も遅れがち。みんながんばれ。



## 細事あれこれ

- ◆吉村先生が忙しいのをうけて鈴木先生も忙しくなりましたが、最近奇妙な現象が起こっています。それは「鈴木先生は探してもいない、用事がないとそこにいる」
- ◆恒例のボーリング大会(11月)では、坂田研が加わり人数も増えましたが、鈴木先生が4位、吉村先生が8位とまだまだ若い者には負けないところを見せつけられました。
- ◆研究室の裏ボスの存在である林 障燮さん(韓国全南大学博士生)が7月いっぱい日本を去ります。静かになります。寂しいですね。
- ◆秋田大学地域共同研究センター(秋田大学鉾山門入り口)が今年オープンしました。県内の各企業の方々などと様々な会議や討論が行われます。
- ◆谷口先生が12月に病気で休んでおりましたが、4月に復帰いたしました。皆さん仕事も大事ですが体には十分気をつけましょう。
- ◆大学院前期課程に特別講義というものが吉村先生の発案により導入されました。(株)フジクラの小山内先生による「技術管理論」が好評。他に「国際経済論」、「工業経済論」、「資源経済論」があり、これら4つの講義のうち2つを自由に選択するもので、必修科目です。
- ◆鈴木先生の教官室から320室に親子電話を引いてきました。これで鈴木先生は上(教官室)にいても下(研究室)にいても出ることが出来るようになりましたが、いない場合はそこにいる学生が緊張しながら出ています。
- ◆研究室に今年もパソコンが一台導入されました。17インチディスプレイ、カラープリンタ専用機で初めてWindowsマシンらしい活躍をしています。ちなみに現役のマシンは8台で、うち2台だけがWindowsマシンとなっています。

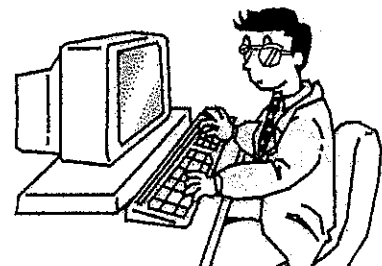


## 昨今のパソコン事情

そろそろ我が研究室のパソコンもパワー不足になってきたことは否めません。その辺についての将来と現在の事情について鈴木先生に考えていただきました。

鈴木 雅史

最近のパソコンの発達はただただ目を見張るばかりで、CPUが286から386、そして486へと代わり、大分計算にも使いやすくなったと感じたのが3年ほど前。今ではPentiumマシンが幅を利かせ、店頭ではDOS/Vマシンの大安売り。今年中には次世代CPU、P6(8086シリーズの第6世代、Pentiumの後継機に当たる)が発売されると聞く。最近のパソコンの計算能力の高さは半端ではなく、クロック100MHzを越えるPentiumマシンなどは整数演算の速さを表すSPECint値で100を軽く越えている。ちなみに3年ほど前に研究室で購入したワークステーションのSPECint値は30にも満たない。これを活用するソフトウェアの進歩も目覚ましく、今年中にはWindows95が発売になるであろう。当研究室でも現在2名の修士学生、1名の研究生(来年博士課程進学予定)、6名の4年生がコンピュータシミュレーション又はそれに類する計算機を用いた研究を行っている。現在の研究室最速マシンはDX2 66MHzを搭載したマシンであるが、研究室の現状を踏まえ、研究の活性化のためにも年に1台程度は新型マシンの購入を吉村先生にお願いしていく予定である。また、今年度中には学科で新しいワークステーションを購入予定であり、研究の成果が期待される所である。なお、インターネットの利用も可能となり、私も北は北海道から南は九州までメールを使い、情報交換をしている。この点について一部の卒業生の方にはメールアドレスをお知らせしましたが、他に加入されている方がおられましたら、"suzuki@ipc.akita-u.ac.jp"までお知らせ下さい。



研究室にとけ込み日本人になりつつある林 暲燮 (Lim Jangseob) さんが今年の 8 月に帰国するにあたって、コメントを頂きました。

### Noboru Yoshimura Lab. での一年半

私は韓国から来た林です。Yoshimura 研究室で勉強することになって一年半ほどになります。研究室の新聞の原稿をお願いされて、いろいろ日本語に関して面白いことを考えました。

ここにくる前に私は、日本に二回来たことがありました。国際学術会議と業務の関係で、九州と東京にあるいろいろな大学を訪問しました。私が驚いたことは、日本の学生の英会話があまりうまくなかったことです。日本人は英語の読解と作文はできますけれども、会話がよくできず、その発音は理解が難しい Janglish(?) でした。そのため、初めて秋田大学に来るとき、この部分が一番心配なことでした。しかし、仙台空港で初めに会った学生は Shikimura さんで、秋田までの四時間位の間、言葉の疎通に問題がないほど英語のうまい人でした。もちろん、発音も大変すばらしかったです。Shikimura さんだけではなく、Kato さん、John さん、Fan さん、Yuen さん、Chen さん、Wang 先生は英会話に問題はありませんでした。吉村研究室の英語の実力は高く、日本語のできない私には本当に大きな助けになりました。

ここに来る前に、日本語の勉強をしなかったことを本当に後悔しました。始めの六ヶ月間は一日に六時間位日本語を勉強しました。日本語だけではなく、研究をすることも必要でしたので、本当に疲れた期間でした。そのとき、Kato さん、Shikimura さん、Aida さん、John さんなど研究室の学生みんなが、私の日本語の先生でした。分かりにくい日本式の表現は、外国人には非常に高い壁です。例えば、「いいです (Yes/No)」、「けっこうです (Yes/No)」、「一するけど

(do/don't)」、「とりあえず(???)」、「中々(1/4)」、「あまり (very/little)」などは、時々反対に理解される可能性が高いです。外国人のように「はい」と「いいえ」ではっきり答える方がよいです。このような表現の差からの誤解だけでなく、「一ませんか」の答え方も難しいです。この時の「Yes/No」は「いいえ/はい」ですけれども、意味は反対にとりやすかったです。外国人にとって、もう一つ難しい部分は敬語です。「いらっしゃる (come/go/be)」などは日本語がうまくない外国人は、使わない方がいいと思います。これからは吉村研究室には、多くの外国人が訪問すると思います。この時、上記の部分を考えて話せば、日本語がへたな外国人も理解することができるでしょう。

吉村研究室の外国人に感謝します。いつも、powerful な研究を行う Wang 先生、まだ日本語がうまくないけど、まじめな Chen さん、論文を作成するのに忙しい Fan さん、日本語の作文がうまい Xu さん、実験的な idea のよい Yuen さん、そして私の永遠の友達 John さん、みんなに感謝します。みんなと吉村研究室で一緒に研究した思い出が、胸の中に永遠に残るでしょう。

最後に、Yoshimura 先生のご親切とご指導に感謝します。先生としても、研究者としても Yoshimura 先生を尊敬します。私は将来の目標として、韓国の金泰成先生と日本の Yoshimura 先生を考えています。機会があったら、もう一度ここに来て、いい研究をしたいです。

吉村研究室の みなさん がんばれ.....

1995.7.17 林 暲燮



#### 林 暲燮 (学歴、履歴)

- 1989年2月 全南大学電気工学科卒業
- 1991年2月 全南大学電気工学科修士課程卒業
- 1994年2月 全南大学電気工学科博士課程修了
- 1994年3月 - 現在 秋田大学研究生
- 1991年3月 - 1992年8月 東新大学時間講師
- 1992年3月 - 1992年8月 木浦大学時間講師
- 1992年9月 - 1994年2月 全南大学助手

#### 家族関係

- 妻 : Park Kun-wha (29歳)
- 長女 : Lim Po-ra (3歳)
- 次女 : Lim So-ra (2歳)

住所 : 韓国、光州直割市東区山水3洞 Dong-san Royal Mension 11-703  
電話 : 韓国、001-82-62-225-7400

## 研究紹介

現在、吉村研究室は35名の大所帯となっており、行われている研究も年々多様化しています。特に今年は絶縁関係のテーマが最も充実していて、学部生も含め全部で9テーマとなっています。

### ○ The Influence of Crystalline Morphology on the Formation of Water Trees in Polymers(D2)

A water needle is respectively inserted into spherulite region and amorphous region (boundary between spherulites) to observe pattern and growth of water trees by image processing technique, and further to investigate whether the branches of a water tree pass through or reroute around spherulites.

### ○酸性雨による有機絶縁材料のトラッキング劣化に関する研究 (D2)

近年、環境に対する酸性雨の影響が懸念されており、これが屋外用電力用機器に使用される有機絶縁材料の耐トラッキング性に及ぼす影響についても評価するため、実験・検討を行っている。

### ○トリーイング劣化に及ぼす高分子材料のモホロジーの影響 (D2)

本研究では、電力ケーブルやコンデンサに使用されているポリエチレンやポリプロピレンなどを用いて、トリー発生、進展に及ぼす球晶、球晶分布、結晶構造、結晶化度の影響について検討を行っている。

### ○複合絶縁材料中の電気トリー進展に及ぼす界面及び電界方向の影響 (D1)

ケーブルの中間接続部におけるEXとEPR間の接触面は斜面である。電極と界面間の角度により絶縁システムの耐トリーイング性が異なると考えられる。ここで、上記のような界面を人工的に作製し、トリー進展に及ぼす界面及び電界方向の影響について基礎的な研究を行う。

### ○ Discrimination of Partial Discharge Patterns Using a Neural Network( 研究生 )

The existence of a void in insulator may cause partial discharge(PD). The results of conventional PD research are difficult to preventive diagnosis because of PD complicated mechanism. so I want to research about discrimination of PD using a neural network learning algorithm. The new PD diagnosis method is an effective alternative to conventional method. However, the following should be considered for the application : Accumulation of the learning data base; Modeling of object.

### ○ゾル・ゲル法によるITO膜の作製とその電気的特性 (M2)

ゾル・ゲル法によるITO透明薄膜の作製を行っております。ITOとは透明な導電性セラミックスで、現在太陽電池や液晶画面上の透明電極として用いられているものです。この研究を始めてもう三年目になりますが、その総まとめの一年ですので精一杯がんばりたいと思います。

### ○ルーバ形状の違いによる床面の照度分布への影響 (M2)

照明器具による室内の照度分布を解析的に求めることは困難であるため、照明器具の形状と室内の照度分布との関係には不明な点が多い。そこで本研究では、モンテカルロ法を用いて照明器具のルーバ形状および天板の反射特性が床面の照度分布へ及ぼす影響を検討したので報告する。

### ○各種条件下における薄膜材料間の動摩擦特性の考察 (M2)

近年、マイクロマシニング技術は急速に発展しつつある。しかし、機械構造が極めて小さいため摩擦力の大きさが無視できず、マイクロマシン開発における大きな障壁となっている。そこで本研究では、マイクロマシン用材料のトライボロジー特性を解明することを目的とする。

### ○電子スウォームパラメータを用いた衝突断面積の推定 (M2)

気体放電の内部状態を把握するためには気体中の電子の挙動を知ることが必要である。電子の挙動を知る指標となる電子スウォームパラメータを用いてボルツマン方程式から電子と気体分子間の衝突断面積を自動的に推定するアルゴリズムを開発中である。

### ○高周波を用いた細菌の死活制御 (M2)

マイクロ波が物体に及ぼす影響として、熱作用と比熱作用にわけて考えられる。甲虫の蛹にマイクロ波を照射したとき、同等の温度での状態と比べ正常な変態を行わない、或いは死滅するということが報告されている。そこで、細菌を温度上昇を伴わずに死活制御できないか検討を行っています。

○ゾル・ゲル法による安定化ジルコニア膜の作製とその電気的特性 (M1)

本研究では昨年に続き、ゾル・ゲル法により安定化した YSZ(Yttria-Stabilized-Zirconia) ゾルを作ることを試みる。できた安定化したゾルをコーティング・フィルムとして利用し、YSZ セラミックス厚膜を作製、膜の電気的特性を測定し、それに対する検討と考察を加えることを目的とする。

○近紫外線ランプの作製 (M1)

UV 光は高いエネルギーを持っているので、半導体薄膜の表面改質など様々な分野での応用が期待されている。本研究は誘電体バリア放電を用いて、Xe<sub>2</sub><sup>+</sup>エキシマ光を発生させ高エネルギーエキシマランプを作製し、さらに形状面での最適化を図る。

○限流素子材料の開発に関する基礎研究 (M1)

電力系統において、短絡事故時の電流を抑制することにより、各種電力機器の事故被害やジュール熱の耐量を低減できる。本研究では、短絡電流を抑制する限流素子材料の開発を目的としている。新テーマであり、今後の方針に四苦八苦している。

○アレスタ用外被絶縁材料の耐トラッキング性に関する研究 (M1)

雷被害を防止するアレスタは屋外で使用されるため、外被として有機絶縁材料を用いる場合、トラッキング劣化が必然的に懸念される。さらに、外被は紫外線、酸性雨、高温状況などの外的劣化因子に下にさらされており、それらを含めた材料の耐トラッキング性を検討、判断する。

○鉄酸化細菌を用いた金属除去に関する基礎研究 (M1)

好酸性、独立栄養細菌の鉄酸化細菌 *Thiobacillus ferrooxidans* は金属を「食べる」細菌として知られている。そこで、このバクテリアを磁気の下で培養し、金属を含む溶液中での金属除去及びその作用メカニズムに関する基礎研究を行っている。

○電気二重層コンデンサの薄膜化 (M1)

電気二重層コンデンサ \* 即ち \* 電気二重層容量を用いたコンデンサであります電極には非常に表面積の大きい活性炭を用いたものが製品化されております、誰か表面積の大きい材質他に知らないですか。

学部生研究テーマ

- IC の内部非破壊検査
- 屋内配電線のトラッキングの予知
- 積層チップコンデンサの内部応力シミュレーション
- セラミックパリスタの回路シミュレーション
- 磁気処理水が赤錆除去・防止に及ぼす影響
- 液晶のバックライトの最適化
- きこの菌糸体の電気制御効果

- 超音波による内部欠陥観察のシミュレーション
- ポリエチレン中電気トリーと球晶の関係
- 積層セラミックコンデンサの絶縁破壊について
- 圧力センサの応力歪みシミュレーション
- ゾル・ゲル法による TiO<sub>2</sub> 薄膜の作製
- ゼオライト関連研究テーマ

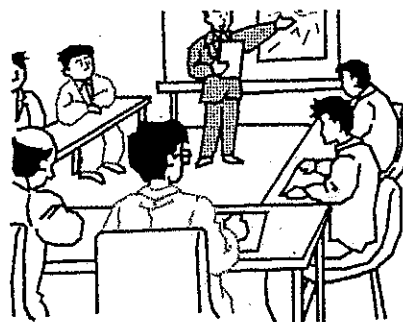
平成6年度修了・卒業者就職先

大学院生

- |         |               |
|---------|---------------|
| 袁 昌 民   | 秋田大学大学院博士後期課程 |
| 加 藤 正 明 | 三菱マテリアル(株)    |
| 敷 村 朝 生 | 北海道旅客鉄道(株)    |
| 花 井 英 二 | 本田技研工業(株)     |
| 若 林 栄 一 | 五洋電子工業(株)     |

学部生

- |         |                 |
|---------|-----------------|
| 萩 原 哲 哉 | (株)ヤマダフーズ       |
| 木 田 正 彦 | 秋田大学大学院博士前期課程   |
| 柴 田 崇   | 東北インテリジェント通信(株) |
| 小野寺 賢 司 | 米国留学            |
| 金 田 陽 子 | 太平工業(株)         |
| 熊 谷 誠 治 | 秋田大学大学院博士前期課程   |
| 下 山 博 正 | 青森市役所           |



- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 白 石 稔             | (株)ユアテック      |
| 杉 本 智 子           | 秋田大学大学院博士前期課程 |
| 瀧ヶ崎 光             | 東京電力(株)       |
| 山 口 秀 憲           | 秋田大学大学院博士前期課程 |
| Joseph John G. M. | 秋田大学大学院博士前期課程 |
| 薄 田 一             | 秋田大学大学院博士前期課程 |



## 学生代表挨拶

相田 一英

研究室の諸先輩、関係者の方々、猛暑の候いかがお過ごしでしょうか。昨年に比べれば随分と過ごしやすい夏となりましたが、相変わらず冷房のない電気系の研究室では夏の暑さとの格闘が続いております。

さて、既に御存知の方も多いでしょうが今年には吉村先生が鉱山学部の学部長に就任した記念すべき年であります。勿論大変おめでたいことなのですが、元々多忙であった吉村先生が益々多忙になるのではという心配がありました。しかし、確かに先生が研究室に姿を現す回数は減りましたがその分先生と一緒にお酒を飲むイベントが増え、かえてくださった話をする機会が増えたのは嬉しい誤算でした。

また、実務面においては博士後期課程の設立に加え客員教授として中国から王先生をお招きし、また王先生の奥様の陳さんが研究生として来られるなど、人材の充実度が年々増しております。特に韓国からいらしている林さんからは研究室のあらゆる学生が多大なる影響を受けているようです。研究室の三分の一近くが留学生となり、飛び交う言語の数も四種類以上となりました。同時に様々な新しい研究・知識に触れることが出来、当研究室の研究テーマも多様な広がりを見せております。

こんな研究室にとっての激動の時代に研究室の代表に任じられてから既に半年が経ちました。ドクターの方々や同輩に助けられ何とか責務を果たしてきましたが、まだまだ至らぬことばかりで迷惑をかけるばかりです。しかしこれまで諸先輩方が培ってきた研究室の伝統を崩さぬよう、残りの期間も全力で研究に、仕事に打ち込みたいと思います。今後とも、御指導、御鞭撻の程宜しく願います。

### 吉村研新聞委員会

顧問	鈴木 雅史
編集委員長	加賀谷文明 (M2)
副委員長	熊谷 誠治 (M1)
	杉本 智子 (M1)
	薄田 一 (M1)
編集委員	加藤 猛 (e4)
	角濱 政義 (e4)
	草薙 輝章 (e4)
	工藤 広幸 (e4)

## 編集後記

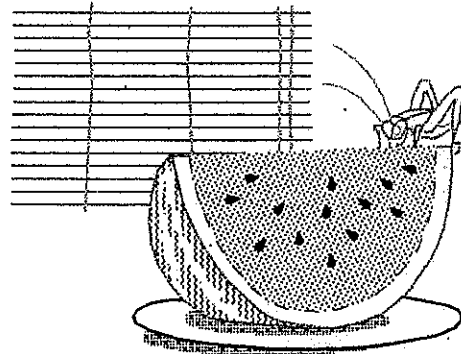
★今年はセンサー研究会が例年よりも早いめ慌ただしい中での編集となりましたが、今年の"挑戦"はいかがだったでしょうか。★早く寄稿を引き受けて下さった吉村先生を始め、ドクター、マスター、研究生の方々、どうもありがとうございました。お陰様で何とか完成に持ち込むことが出来ました★毎年少しずつ研究室の雰囲気は変わってきており、この新聞を通して少しでもその雰囲気を知ってもらえれば幸いかと存じます。★ということで、研究室新聞"挑戦"に対するご意見やご感想、質問などをお待ちしております。また卒業生紹介も次号から掲載していきたいと思っておりますので、OB,OGの方手紙などを書いていただければと思います。連絡は下記の住所までお願いいたします。

〒010

秋田市手形学園町 1-1

秋田大学鉱山学部電気電子工学科  
電気システム工学講座吉村研究室  
鈴木 雅史

★重ねて新聞発行にご協力いただいた方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。



### 挑戦第5号早分かり目次

1. 吉村先生挨拶
2. 特集 吉村先生学部長就任
3. 客員研究員紹介—王新生先生
4. 研究生紹介—陳麗さん
5. 年間行事
6. 細事あれこれ、昨今パソコン事情
7. 日本を去るにあたって—林 暉燮
- 8.9. 研究紹介
9. 平成6年度修了・卒業生就職先
10. 学生代表挨拶